2016 年 3 月 24 日

各 位

医化学創薬株式会社

株式会社免疫生物研究所および株式会社トランスジェニック に対する第三者割当増資に関するお知らせ

医化学創薬株式会社（代表取締役社長：伊藤勝彦、札幌市）は、この度、株式会社免疫生物研究所（代表取締役社長：清藤勉、群馬県藤岡市、以下「IBL」という。）および当社資本業務提携先である株式会社トランスジェニック（代表取締役社長：福永健司、福岡県福岡市、以下「TG」という。）に対する第三者割当増資を実施することを決定いたしましたのでお知らせ致します。

当社は、従来から TG との資本業務提携を行い、当社独自の新規抗体医薬品開発システムによって創出された各疾患特異的な糖鎖構造を認識する抗体医薬候補について、TG および TG グループ各社に評価を依頼し、導出に向けてその付加価値を高めております。また、同時に、両社で構築する創薬プラットフォームの製薬企業への提供を通じて企業価値の向上を図っておりますが、このたび TG からの追加増資に加え、TG の包括的業務提携先であり、抗体作製技術の実績に定評のある IBL に第三者割当増資を実施することとなりました。

当社、IBL、TG の 3 社が互いに協力することで新しい抗体医薬の創薬プラットフォームを構築いたします。当社は糖鎖に関する GT-Platform（※）によって病気の原因に関係する抗原の探索および合成を担当し、IBL は長年培ってきた抗体作製技術に加え、遺伝子組換えカイコを使用する手法によって抗体を作製、TG は動物モデルで作製した抗体の評価を行う体制を取ることが可能となります。

今回の増資が、3 社の協力関係を促進することで、創薬を通して人類・社会の健康に貢献してまいりたいと考えております。

※GT-Platform

当社が保有する基盤技術である、①糖鎖解析技術：グライコブロッティング法　②糖鎖合成手法：マイクロ波と酵素合成法を活用　③抗体の評価法：糖ペプチドライブラリー/マイクロアレイの作製技術　④特異抗体作製：非特異吸着抑制（PC/SAMs）微粒子作製技術　に基づいた総合的な糖鎖解析手法です。

【株式会社免疫生物研究所】

1982 年設立。蓄積された技術と信頼を背景に、抗体試薬・診断薬の製造・開発メーカーとして国内屈指の規模を誇るほか、今後、成長が期待される遺伝子改変カイコの繭から産生させた有用なたんぱく質を活用した医薬品原料の開発・製造を行っています。東京証券取引所 JASDAQ 市場上場。

【株式会社トランスジェニック】

1998 年設立。抗体の開発・受託を行う研究所からスタートし、現在はグループ各社とともに、遺伝子破壊マウス作製および大学・製薬企業等の研究機関への遺伝子情報の提供、試薬販売、さらに非臨床・臨床試験受託、病理診断と事業領域を拡大し、オンリー・ワンの創薬トータル支援企業を目指している。東京証券取引所マザーズ市場上場。

【医化学創薬株式会社について】

2010 年、先端的な糖鎖研究をサポートするとともに、新たな医療を待ち望む人々に役に立つ抗体医薬品を創製することを目的として設立されました。

糖鎖解析・合成を中心とした総合的糖鎖技術 GT-Platform™を確立し、これをベースに抗体医薬品創薬システム QuaDRAD™を完成させました。これらの技術・システムを基盤にして受託サービス及び創薬事業を展開し、糖鎖及び創薬の研究をサポートするとともに、さまざまな疾患領域の抗体医薬品を継続的に提供し、医療と健康に貢献したいと考えています。

お問い合わせ先
医化学創薬株式会社　経営管理部 〒001-0021　札幌市北区北 21 条西 12 丁目 コラボほっかいどう E-Mail：mcp@soyaku.co.jp　　URL：http://soyaku.co.jp/